

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-70432

(P2000-70432A)

(43) 公開日 平成12年3月7日(2000.3.7)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード(参考)
A 6 3 C 9/02		A 6 3 C 9/02	
5/00		5/00	C

審査請求 未請求 請求項の数2 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平10-284698

(22) 出願日 平成10年8月31日(1998.8.31)

(71) 出願人 594085890

宇野 伸行

埼玉県草加市手代町478番2号

(72) 発明者 宇野 伸行

埼玉県草加市手代町478番2号

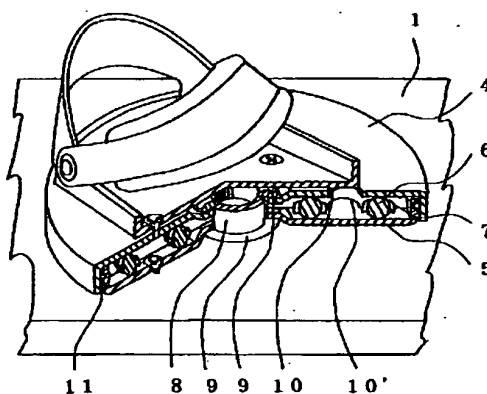
Nobuyuki UNO

(54) 【発明の名称】 スノーボードのバインディングの回動装置

(57) 【要約】

【課題】 スノーボードの安全性と操作性に優れ、滑走スタイルの変化を自由に楽しめるバインディングの回動装置の提供を目的とする。

【解決手段】 回動装置は、天板と底板内部に納められたボールを、中心軸と上下の受けリングで挟持することにより構成されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】リテーナ(7)によって保持された複数個のボール(6)を、天板(4)と底板(5)とで挟み、天板と底板を貫設する中心軸(8)と中心軸上下の受けリング(9)により、天板と底板とを回動自在になるように挟持し、天板と底板の周壁の重合する内部に若干の間隙を保持してシール(11)を設けた、スノーボードのバインディング回動装置。

【請求項2】天板(4)と底板(5)の内部に滑動材を設けたことを特徴とする請求項1記載の、スノーボードのバインディングの回動装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はスノーボードに用いる固定式のバインディングを、回動自在にするための、回動装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来のバインディングは、スノーボード上に一定の角度を持たせて固定するものであって、回動する機能がなく、両足がスノーボードに固定される方式であった。したがって、転倒時の衝撃が大であり、安全性と操作性に問題があった。特開平9-276474「スノーボードの装着金具」の名称で請求の範囲「回天板の上部に足受板を設け、足受板の両側にベルトを設け、緑の付いた滑り板の中に回天板を収め、滑り板をボードに装着したスノーボードの装着金具」があります。従来の発明では、1)図1の回転盤の断面図は皿状の形状体を伏せた図であり、これは体重により回転機能を損なう、2)緑の付いた滑り板の構造では、雪、水、ダスト、の侵入があり回転機能を損なう、したがって従来技術においては回転状態が不安定となり効果が得られない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は従来の固定式のバインディングの欠点を除いて、安全性、操作性に優れ、従来にない興味ある運動具を提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】リテーナによって保持された複数個のボールを天板と底板で挟み、中心軸と中心軸上下の受けリングにより、天板と底板とを回動自在になるように挟持し、天板と底板の周壁の重合する内部に、若干の間隙を保持してシールを設けたことを特徴とする。

【0005】

【発明の実施の形態】図1はスノーボード全体例を示し、(1)はスノーボード、(2)は回動装置、(3)はその上部に設けられたバインディングである。図2は、回動装置(2)の天板(4)と底板(5)を示し、その

内部に納められたボール(6)とボール保持用のリテーナ(7)である、天板と底板とを貫設する中心軸(8)と、天板と底板を挟み込み回動自在になるように挟持した中心軸上下の受けリング(9)を設ける、(10)(10')はスノーボードに回動装置の底板を固定するため天板とリテーナに開けられたハンドホール、(11)は外周壁の重合する内部に設けられたシールである、この周壁は板の強度を上げると共にシールを設ける為である、シールは回動装置内部の清浄を保つことを目的としている。本発明は、以上の構成よりなっている。本発明を使用するときは、底板をスノーボードに固定して、バインディングを天板に固定する、ボールの作用により回動自在になったバインディングに足を固定すれば、左右の足それぞれが、中心軸を中心に自在な角度で回動運動が可能であり、スノーボードの長手軸方向に対して、足先を自在な角度に向けて操作することができる。図3は、回動装置他例を示し、(4)は天板、(5)は底板(8)は中心軸、(9)は受けリング、(10)(10')は天板と滑動材に開けられたハンドホール、(11)はシール、(12)(12')は天板側と底板側の内部面に納められた滑動材です。この滑動材の摺動面(13)の滑り作用により回動運動が可能である、この回動装置は図2の回動装置に比べ構造が簡単であり図2のボール(6)と同等の効果がある。この発明は次のような実施態様をとることができます。

(1)図2で説明したシールは、その種類を限定されません。

(2)図3で説明した滑動材は、その種類を限定されません。

【0006】

【発明の効果】この発明は、実施の形態に示すように、バインディングを回動自在になるような装置に設けたことで、滑走状況に対応して足の方向が自由に変えられるので、転倒時の安全性と操作性に効果があり、回動装置の方向性の自由度により、自由な方向転換が得られ、斜面での滑走スタイルの変化を楽しめて、従来のスノーボードにはないスポーツ的效果を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】スノーボード全体図

【図2】バインディングと回動装置の斜視図の断面図

【図3】回動装置他例の斜視図の断面図

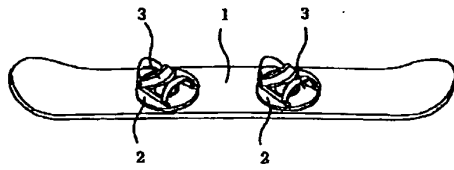
【符号の説明】

1スノーボード 2回動装置 3バインディング 4天板
5底板 6ボール

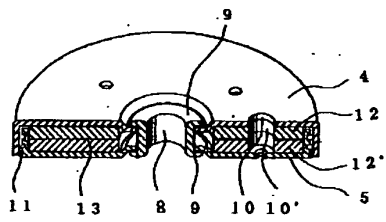
7リテーナ 8中心軸 9受けリング 1010' ハンドホール 11シール

1212' 滑動材 13摺動面

【図1】



【図3】



【図2】

